

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	生涯学習課	職	課長	氏名	土室 完
評価者	組織	生涯学習課	職	課長	氏名	坂井 芳子

	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	学びの気運に満ちた生涯学習社会づくり	県立生涯学習施設年間利用者数	人	353,000 (H27)	396,095 (H22)	365,222 (H23)	B
施策2	学校、家庭、地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上	「げんきいっぱいカード」目標達成者数	人	7,500 (H27)	6,375 (H22)	6,836 (H23)	A

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み					評価	
施策	課題		成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
					(年度)	(年度)	(年度)						
施策1	課題1	県民大学校の充実	石川県民大学校修了者数(累計)	人	15,000 (H27)	13,119 (H22)	13,686 (H23)	県民大学校費	県民	38,092	38,090	A	継続
	課題2	図書館マルチ検索・予約システムの運営	県内公共図書館蔵書情報横断検索システム年間アクセス件数	件	242,000 (H27)	154,458 (H22)	171,042 (H23)	図書館マルチ検索・予約システム運営費	県民	21,330	21,305	A	継続
施策2	課題1	心の教育の推進	親子の架け橋一筆啓上「親子の手紙」応募数	点	28,000 (H27)	19,631 (H22)	22,471 (H23)	心の教育推進事業費	青少年等	10,449	10,439	A	継続
	課題2	いしかわ子ども自然学校の実施	「いしかわ子ども自然学校」参加者数	人	5,400 (H27)	3,961 (H22)	4,218 (H23)	いしかわ子ども自然学校推進事業費	小・中学校生	7,168	6,943	B	継続

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 県民大学校費	事業開始年度 H2	事業終了予定年度	作組織 生涯学習センター 成職・氏名 担当課長 松尾貞英 者電話番号 076 - 223 - 9572 内線721222
	根拠法令 ・計画等	石川の教育振興基本計画	

事業の背景・目的
多様化・高度化する県民の学習要求に応え、本県の豊かな自然と文化の継承発展を図りつつ、社会の変化に対応できる創造的で活力ある県民の育成を図り、生涯にわたる学習の機会を提供する。

- 事業の概要**
- 1 県民大学校・大学院の開設
 - ・大学校教養講座(30単位未満) 入校者 6,970人、修了者 262人
 - ・大学校専門講座(30単位以上) 入校者 593人、修了者 275人
 - 6コース:文化探求、国際理解、スポーツ・生活、産業・情報、能力開発、放送利用
 - ・大学院石川の博士養成講座(30単位) 入校者101人、修了者 30人
 - 2コース:専修コース(文学・自然・歴史)、講師養成コース
 - 2 県民大学校・大学院修了証書交付式の開催
 - ・H22修了生(大学校 530人、大学院 31人)に修了証書を交付
 - ・記念講演会 参加者 250名
 - 3 講座の開設
 - ・いしかわいきいき講座(8回)、生涯学習ファシリテーター養成講座(6回)
 - あすなろ悠々塾(22回)、能登文化講座など
 - 4 放送利用講座の開設
 - ・テレビ番組「ふれあい空間いしかわ」(27回放送)、「いしかわ大百科」(17回放送)
 - 5 広報等
 - ・ポスター、受講案内等の作成・配布

- これまでの見直し状況**
- ・H11年度 県民大学校大学院「石川の博士」養成講座を開講
 - ・H17年度 県民の生涯学習活動を通して培った成果を発表する機会として「県民企画講座」を実施
 - ・H19年度 「生涯学習コーディネーター養成講座Ⅰ・Ⅱ」を「生涯学習コーディネーター入門講座」、「生涯学習コーディネーター実践講座」に再編
 - ・H20年度 「生涯学習コーディネーター入門講座・実践講座」を「いしかわいきいき講座」、「生涯学習ファシリテーター養成講座」に再編
 - ・H21年度 「生涯学習ファシリテーター養成講座」にスキルアップ講座を設置
 - ・H22年度 「あすなろ悠々塾」を開設し、県民が自主企画した講座を実施
 - ・H23年度 事業の見直しにより、「びっくり科学教室」「地域活動指導者専門講座」を廃止
県主催の映像関係講座の一部(シネマ・アフタヌーン、子ども映画会)を市町に移管

施策・課題の状況							
施策	学びの気運に満ちた生涯学習社会づくり					評価	B
課題	県民大学校の充実						
指標	石川県民大学校修了者数(累計)					単位	人
目標値	現状値						
平成27年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度		
15,000	11,396	11,994	12,558	13,119	13,686		
事業費							
(単位:千円)	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度		
事業費 予算	40,247	39,655	39,650	38,382	38,092		
事業費 決算	40,247	39,655	39,650	38,315	38,090		
一般 予算	40,247	39,655	39,650	38,382	38,092		
財源 決算	40,247	39,655	39,650	38,315	38,090		
事業費累計	778,620	818,275	857,925	896,240	934,330		
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性	A	県民大学校は、県民の多様な学習ニーズに対応して、県の施設をはじめ、国、市町、民間教育機関等と連携し、平成23年度では1,021(平成22年度944、平成21年度938)の多様な講座を開講し、様々な学習機会を県民に提供してきた。また、記念講演を実施することにより、県民が県民大学校をより理解し、生涯学習の場として活用することを促すよい機会となった。					
今後の方向性	継続	国際化、価値観の多様化など急速に変化する社会環境のなか、生涯学習社会の実現のため、県民一人ひとりのライフスタイルに応じた学習機会の提供に努めることが重要である。これからの生涯学習社会では、自らの生涯学習の成果や技能を社会に還元し、個人の学習活動と地域社会の生涯学習活動が密接に関連しあう生涯学習社会の実現に向け、県民が講師となって講座を実施できるような学習機会の充実を図る。					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 図書館マルチ検索・予約システム運営費	事業開始年度	H5	事業終了予定年度	
	根拠法令	石川の教育振興基本計画		
	・計画等			

作組	織	図書館			
成職	・氏名	企画協力グループ 司書主任 杉井 亜希子			
者	電話番号	076 - 223 - 9581 内線 77247			

事業の背景・目的
 インターネット上に所蔵資料を公開し、利用者自らが自宅のパソコンや携帯電話で蔵書検索、貸出予約ができる機能を整備し、広く県民の図書館利用を促進する。県内全域において、より利便なサービスの提供に努める。
 また、県立図書館と県内の市町立図書館や大学図書館の蔵書の所蔵情報が同時に検索できる「インターネット横断検索」システムによる、県内図書館所蔵資料のネットワークを整備する。

- 事業の概要**
- (1) 図書館業務システムの管理と運用
 - ・貸出・返却、蔵書管理等の図書館電算業務の運用
 - (2) 「図書館情報ネットワーク」システムの運用
 - (3) 「図書館情報県民開放」システムの運用
 - ・メール予約、相互貸借図書が増加

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
メール予約	11,160	14,689	16,553	17,661	18,377	16,924
うち相互貸借	7,540	8,808	9,276	9,726	9,756	9,171

- (4) 図書館横断検索システムの運用
 - ・横断検索システムアクセス件数の増加

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23
横断検索システム	63,504	105,485	119,167	142,093	154,458	171,042

- ◆ 石川県立図書館電算化システムの経緯
 - 平成 9年度 県立図書館電算システム導入・運用開始
 - 10年度 インターネットによる「ライブラリーネットいしかわ」の運用開始
 - 11～ インターネット横断検索システムの運用実験
 - 14年度 インターネット横断検索システム本稼働
 - 18年度 県立図書館電算システム更新

- ◆ 石川県内公共図書館 電算化の現状(H24.3)
 - ・電算システム導入館:42館(県立1、市町立37、大学4)
 - ・横断検索システム参加館:42館(県立1、市町立37、大学4)

これまでの見直し状況
 H18年度 業務システムに他システムの機能を一元化
 H23年度 システム機器を再リース
 H24年度 システム更新予定(H25.2)

施策・課題の状況						
施策	学びの気運に満ちた生涯学習社会づくり				評価	B
課題	図書館マルチ検索・予約システムの運営					
指標	県内公共図書館蔵書情報横断検索システム年間アクセス件数				単位	件
目標値	現状値					
平成27年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
242,000	105,485	119,167	142,093	154,458	171,042	

事業費						
(単位:千円)	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
事業費	予算	27,032	24,607	23,022	22,893	21,330
	決算	26,666	24,607	23,022	22,893	21,305
一般	予算	27,032	24,607	23,022	22,893	21,330
財源	決算	26,666	24,607	23,022	22,893	21,305
事業費累計	679,636	704,243	727,265	750,158	771,488	

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<p style="font-size: 2em; text-align: center;">A</p> <p>平成18年度に電算システムを更新し、ホームページを活用した情報提供や、携帯電話サイトの導入、県内図書館の横断検索のスピード化など、県民の利便性を高めた結果、インターネットアクセスが増加した。 また、市町立図書館の石川県図書館ネットワーク参加の推進によって、平成24年3月31日時点で、公共図書館38館、国公立大学図書館4館(計42館)の蔵書が検索可能となった。</p>
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<p style="font-size: 2em; text-align: center;">継続</p> <p>横断検索参加館を広げ、ネットワーク化をより進めることによって、検索・予約できる資料を充実させ、多様化、高度化する県民ニーズに応え、あらゆる年代の生涯学習を支援する。 また、県内全域の県民がより簡易に情報にアクセスできる体制を整え、知的インフラを整備することで、図書館間の資料・情報の相互利用の推進、図書館資源の有効活用を目指す。</p>

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	心の教育推進事業費	
	事業開始年度	H10
	事業終了予定年度	
	根拠法令・計画等	石川の教育振興基本計画

作 組 織	生涯学習課	
成 職・氏名	課長補佐 谷内 正樹	
者 電話番号	076 - 225 - 1839 内線 5610	

事業の背景・目的
 心豊かでたくましく生きる子どもを育む環境の醸成を図るため、豊かな人間性を培う「心の教育」を県民を挙げての運動となるよう努めてきたが、いじめ・不登校や非行の問題など子どもたちを取り巻く状況は、依然として憂慮すべき状況にある。このような中、平成23年1月に「石川の教育振興基本計画」が策定され、心の教育の充実が施策の方針の一つに位置づけられたことから、引き続き、学校・家庭・地域が連携した「心の教育」の充実に向けて各種事業を展開し、県民意識の高揚を図る。

- 事業の概要**
- 1 心の教育推進総括事業
 - ・心の教育推進協議会の開催 (5/23 3/26 心の教育推進施策について)
 - ・心の教育推進大会の開催 (11/5 いしかわ子ども交流センター 参加者数 371人)
 - 2 家庭・地域教育力向上推進事業
 - ・親子の架け橋一筆啓上「親子の手紙」の募集 (応募数 22,471点)
 - ・グッドマナーキャンペーンの実施 (参加協力者数 88,979人)
 - ・子どもの生活リズム向上推進事業 (達成者数 幼児 6,836人 小学生 15,364人)
 - ・ラジオ広報 (24回放送 各方面で活躍する県ゆかりの方へのインタビュー)
 - ・スポーツ選手ふれあい事業 (11/5 いしかわ総合スポーツセンター 参加者数 88人)
 - 3 いじめ・不登校対策事業
 - ・フレンドシップ相談員派遣事業 (生徒指導・教育相談に関する検討会 33回開催)
 - ・高校生ボランティア講座 (県立学校11校で実施)

- これまでの見直し状況**
- H17 「心の教育推進専門委員会」と「いじめ・不登校問題対策専門委員会」を「特別委員会」に一本化
 - H19 「石川っ子すくすく大作戦すくすくノート」、「大人と子どものふれあい読書タイム」カード、「いじめ不登校対策チェックシート」をHPに掲載 (学校・家庭・保育園等で自由にダウンロード可)
 - H21 中高生グッドマナーキャンペーンの声かけ対象を小学生にまで拡大 (グッドマナーキャンペーンに名称変更)
 - H22 生活リズム向上推進事業の対象を幼児だけでなく児童にまで拡大 (幼児・げんきいっぱいカード 児童・げんきあっぷカード)
 - H23 豊かな心を育む教育推進県民会議を廃止し、新たに心の教育推進協議会を設立 (「石川の教育振興基本計画」における「心の教育」の推進)

施策・課題の状況						
施策	学校、家庭、地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上				評価	A
課題	心の教育の推進					
指標	親子の架け橋一筆啓上「親子の手紙」応募数		単位	点		
目標値	現状値					
	平成27年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	28,000	9,775	12,564	15,668	19,631	22,471

事業費						
(単位:千円)		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
事業費	予算	20,800	18,620	15,338	12,035	10,449
	決算	20,800	18,620	15,081	11,966	10,439
一般	予算	20,800	18,620	15,338	12,035	10,449
財源	決算	20,800	18,620	15,081	11,966	10,439
事業費累計		365,306	383,926	399,007	410,973	421,412

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	心の教育推進事業である、「親子の手紙」の応募者数、グッドマナーキャンペーンの参加協力者数、子どもの生活リズム向上推進事業幼児用カードの達成者数が、過去最高を記録するなど、学校・家庭・地域が連携した心の教育への関心の高まりがみられた。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	いじめ・不登校、不調・不登校、中1ギャップ(※1)が1つの課題(※2)等、依然として憂慮すべき状況が子どもたちを取り巻いている。心の教育関連事業への参加者の増加等、県民意識の高揚は見られるが、今後も継続した息の長い取組を進め、より多くの県民がこれらの問題に関心を持ち、社会全体で子どもをはぐくむ環境づくりを推進していきたい。 なお、高校生のボランティア活動については、更なる活性化を図るためのリーダー養成に取り組む。 ※1) 中1ギャップ: 中学1年生になったとたん、学習や生活の変化になじめずに不登校となったり、いじめが急増するという現象。 ※2) 小1プロブレム: 入学したばかりの小学校1年生に集団行動が取れない、授業中に座ってられないなどの状態が数か月継続する状態。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわ子ども自然学校推進事業費	事業開始年度	H14	事業終了予定年度		作 組 織	生涯学習課
	根拠法令 ・計画等	石川の教育振興基本計画			成 職・氏名	課長補佐(青少年家庭教育)清水 茂
					者 電話番号	076 - 225 - 1837 内線 5608

事業の背景・目的
 「いしかわ子ども自然学校」を開校し、体験活動期間の長期化も含めたプログラムの多様化を図り、大自然の摂理を体験的に学ぶ中で、自然保護の大切さや思いやりの心を育ませたり、自然の材料を素材として先人の生活の工夫を学ばせるなどの自然体験型環境教育の活動プログラムを実施する。また、すべての小学生に豊かな人間性、社会性を身に付けさせる有効な環境づくりを支援するため、石川県教育センター研修講座「集団宿泊自然体験活動」へ講師を派遣し、指導者の育成を図る。

- 事業の概要**
- (1) 推進体制の整備
- ・指導者養成事業(指定管理者へ委託)
 子ども自然学校ボランティア養成事業(7講座 124名参加)
 (実施主体: 県立4施設)
 - ・学習教材等の整備充実(指定管理者へ委託)
 事前、事後学習及び野外活動に必要な教材備品等の整備
 - ・石川県教育センター研修講座「集団宿泊自然体験活動」への講師派遣
- (2) 個人参加型プログラムの提供(指定管理者へ委託)
- ・オールシーズンチャレンジ(16プログラム 205名参加)
 1年を通じ、土・日・長期休業期間を利用し、通算10日間程度の活動
 - ・サマーチャレンジ(10プログラム 790名参加)
 夏季休業中に1泊2日～3泊4日程度の活動
 - ・ファミリーチャレンジ(34プログラム 1,487名)
 親子参加型の日帰り・1泊2日の活動
- (3) 広報・PR活動
- 案内パンフレットの作成(小学4～6年生に配付)
 * 38,000部作成

これまでの見直し状況

- H14～H18 学校活動型実践推進事業(毎年50校、5ヵ年で全小学校に補助)
- H15～ インタープリターセミナーへの教員派遣(毎年50校)
- H18 学校活動型実践推進事業の検討(H19年度より廃止)
- H19 集団宿泊自然体験活動担当者連絡会議の開催
- H20 指定管理者へ委託
 石川県教育センター研修講座「集団宿泊自然体験活動」を開催

施策・課題の状況						
施策	学校、家庭、地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上				評価	A
課題	いしかわ子ども自然学校の実施					
指標	「いしかわ子ども自然学校」参加者数			単位	人	
目標値	現状値					
	平成27年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	5,400	3,544	3,296	2,910	3,961	4,218

事業費						
(単位: 千円)						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
事業費	予算	12,724	10,074	9,618	8,047	7,168
	決算	12,542	10,006	9,047	8,046	6,943
一般	予算	12,724	10,074	9,618	8,047	7,168
	決算	12,542	10,006	9,047	8,046	6,943
財源	決算	12,542	10,006	9,047	8,046	6,943
事業費累計		139,602	149,608	158,655	166,701	167,129

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<p style="font-size: 2em; text-align: center;">B</p> <p>個人参加型プログラムには、実施機関やプログラムの増加もあり、昨年度より約250人増の、4,218人の参加があった。特に、オールシーズンチャレンジやサマーチャレンジでは、定員を大きく上回る応募状況であり、依然として、自然体験活動に対する県民のニーズは高い。しかしながら、ファミリーチャレンジの参加が横ばいとなっており、今後はより参加者ニーズにもとづく内容の改善を図ると共に、より効果的な広報・PR活動について検討していく必要がある。</p>
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<p style="font-size: 2em; text-align: center;">継続</p> <p>自然に対する興味関心を高め、集団生活の中で、思いやりや協力する心、責任感などを育む取組は、子どもたちの「生きる力」を育む上で大変重要と考え、今後も指導者技術の向上をはかる研修会の開催したり、実施機関を増やしたりするなど、事業の充実をはかっていきたい。ファミリーチャレンジについては、施設利用者に対するPRをはじめ、テレビ・ラジオ番組や広報誌などでも積極的にPRに努める。</p>